２０１３年　８月１２日（月）宮城県から福島県へ　閖上　小高区　浪江町　飯館村視察

福島の高校の先生、斉藤毅さんの車に乗せてもらい、福島に向けて出発。

国道４号を南下。若林区の陸上自衛隊霞目飛行場の横を通り、名取川の河口、井土浦に出る。

農地復旧、除塩作業中。

藤塚で農家の人がハウスの前で作業しているので聞くことにする。三浦善一さん６３歳。

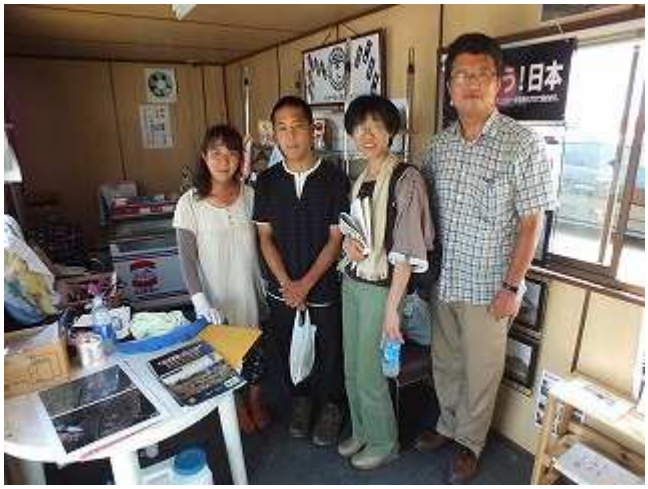
９６戸の集落。東六郷小学校に逃げたが、校舎に入れてくれない。たばこを吸っていると、津波が見えたので、あわてて２階に避難して助かったという。

除塩はしたが、作物の生育が不ぞろいだという。

１０号に出て、閖上大橋を渡り、名取川を越えて、閖上地区へ。港や魚市場のあとを通る。

高台に神社が移転されて、復興のシンボルのようになっている。横の復興支援販売店によって売店の人に話を聞く。行政の移転計画に納得がいかず、復興が最も遅れた地域のひとつだという。

草刈りをしている人たちはボランティアだと。



閖上小学校に行ってみる。体育館には、見つけ出したランドセルや写真などが並べられている。

倉庫が通路に突っ込んでいたり、体育館横のトイレは泥だらけ。

仙台空港の見学はやめて、国道４号を南下。岩沼で国道６号に曲がり、亘理町、山元町、新地町を通り、相馬市へ。

昨日の漁業者たちの相馬港、松川浦をみて、

相馬市から常磐道（復興支援道路）で、南相馬市へ。

国道１２号で、原町区に入り、南相馬市役所、原ノ町駅

再び６号で２０キロ圏内の検問所、原町区大甕を通過。いまは台数を数えているだけ。

しかし、風景は一変する。荒れ果てた農地。ところどころに積み上げられたガレキ。
６号を左折し、谷地畑から２６２号に入り、２６０号に出て、小浜から海近くの谷地と名のつく集落を通る。原町区小沢の津田海産、みどり理容室の横を通り、２６０号を小高方面へ。大井で６号を横断し、ツルハドラッグのガレキをみて、常磐線を越えて小高区の町にはいる。信号は動いているが、無人。
　しかし、日中だけ入ることは許されているので、比較的整備されている。鈴木安蔵の生家などを確認。

行列のできる人気のケーキ屋わたなべには「必ず小高で復活します」と。

小高駅には、小高工業・小高商業の高校生たちの自転車が置かれたまま。
電車の通らない常磐線。２５５号から６号を突っ切り、海岸近くを通り、浦尻地区へ。

浦尻からは浪江に入れないので、６号に戻り浪江町へ。　知命寺交差点を左折。２５４号で請戸に入ろうとすると、警備員。臨時の立ち入り許可証が必要だという。

浪江の町には人通りがないだけでなく、立ち入りが制限されているので、荒れ放題。

棚塩地区を通り、請戸港へ。船が農地に散乱している。車も放置されたまま。田んぼらしきところも、草ぼうぼう。

請戸小学校は海岸のすぐそば。卒業式の準備が整う体育館の床は抜け落ち、２階の黒板近くまで水が来たという。廊下が広くオープンスペースだろう、魅力的な作りの学校だ。

１階は破壊されたままの状態。窓の外にはがれきの山。
遠くには福島原発が見える。太陽光発電システムが破壊されていたのが皮肉だ。

６号をもどり、南相馬道の駅で映画撮影班と合流。１２号で飯館村の山道を福島まで走る。
線量計が最高の１．５マイクロシーベルト。警告音が鳴りっぱなし。